

- 問1 ある地域の地形図を確認したところ、山地の斜面に「三角形の頂点から垂直な線が引かれた形状」の記号が密集していました。この地域の景観や環境について説明した文として、最も適切なものを次のなかから選びなさい。（2017年 三重県公立入試 類似）
1. 冬でも緑の葉を保つスギやマツなどが多く、木材生産などに利用されることもある景観。
 2. 傾斜地を利用して、ブドウやナシなどの果実を収穫するための樹木が整然と並んでいる景観。
 3. 米を生産するために、水をためる仕組みを整えた平坦な耕作地が広がっている景観。
 4. 秋に紅葉し、冬に落葉するブナやミズナラなどの広葉樹が中心となっている景観。
- 問2 地震発生時に液状化現象が起こりやすい地域の土地条件と、その仕組みについて説明した文として最も適切なものはどれですか。（2024年 島根県公立入試 類似）
1. 大規模な森林伐採が行われた場所で、土壌の保水力が失われて地面が流動化する。
 2. 水分を多く含んだ砂質の埋め立て地などで、振動により砂の粒子の結合が崩れて地盤が軟弱化する。
 3. 硬い岩盤で構成された台地において、地震のエネルギーが一点に集中して地面が割れる。
 4. 山間部の急傾斜地において、激しい揺れによって表面の土砂が一度に崩れ落ちる。
- 問3 河川が山間部から平野部へ流れ出る谷口付近において、流速が落ちることで運搬されてきた土砂が堆積してできた扇型の地形について、その名称と土地利用の組み合わせとして適切なものを選びなさい。（2018年 和歌山県公立入試 類似）
1. 扇状地であり、水はけの良さを活かして果樹園などに利用される。
 2. 台地であり、洪水の影響を受けにくいことを活かして住宅地として利用される。
 3. 三角州であり、水が得やすいことを活かして主に水田として利用される。
 4. 砂丘であり、乾燥に強い作物を栽培する畑として利用される。
- 問4 火山活動に関連する地形である「カルデラ」の成り立ちについて述べた文として、最も適切なものはどれか、次から選びなさい。（2020年 佐賀県公立入試 類似）
1. 火山灰が長期間にわたって広範囲に降り積もり、水はけのよい平坦な台地が形成されたもの。
 2. 火口付近から流れ出した溶岩が冷えて固まり、おわんを伏せたような形の山が形成されたもの。
 3. 火山の周囲にある川の周辺で、土砂が堆積してできた平坦な土地が、地殻変動で数段の階段状になったもの。
 4. 噴火によって地下のマグマが大量に放出されたあと、地表が自重で陥没して大規模なくぼ地となったもの。
- 問5 九州地方の阿蘇山周辺に見られる、大規模な火山の噴火によって地下のマグマが噴出した後、地表が陥没することによって形成された巨大な窪地を何と呼びますか。（2021年 新潟県公立入試 類似）
1. シラス台地
 2. 三角州
 3. 扇状地
 4. カルデラ
- 問6 河川が山地から平地へと流れ出る「谷口」と呼ばれる場所では、流れが急に緩やかになることで、上流から運ばれてきた土砂が堆積し、同心円状に広がる地形が形成されます。この地形の名称として正しいものはどれですか。（2019年 愛媛県公立入試 類似）
1. 氾濫原
 2. 扇状地
 3. 台地
 4. 三角州
- 問7 地形図において、特定の二地点を直線で結び、その線に沿った地表の起伏を横から見た図として表したものを何というか。また、その図を作成する際に、地形図から読み取るべき情報として最も適切な説明を選びなさい。（2021年 奈良県公立入試 類似）
1. 断面図と呼び、直線が等高線と交わる地点の標高を読み取り、高さの目盛りに対応させてつなぐ。
 2. 等高線図と呼び、直線上の最も標高が高い地点と低い地点のみを抽出し、その二点を直線で結ぶ。
 3. 柱状図と呼び、直線上の各地点における地層の重なり方や岩石の種類を詳しく描き入れる。
 4. 鳥瞰図と呼び、特定の地点から対象となる地形を斜め上から見下ろしたような遠近感で描く。
- 問8 瀬戸内海沿岸の地域における降水量の特徴について、日本海側の地域や太平洋側の地域と比較した説明として正しいものはどれですか。（2018年 徳島県公立入試 類似）
1. 日本アルプスに遮られた中央高地と同様の気候であり、冬の寒さが厳しく、夏にのみ集中的に雨が降る。
 2. 対馬海流の影響により、冬の降水量は日本海側の地域とほぼ同じ水準になるが、夏の降水量は極端に少ない。
 3. 黒潮の影響を強く受けるため、太平洋側の地域と同じように、夏から秋にかけての降水量が日本で最も多い。
 4. 日本海側のように冬に降水量が増えることも、太平洋側のように夏に降水量が増えることもなく、年間を通じて降水量が少ない。
- 問9 火山の噴火によって地下のマグマが大量に排出された結果、その重みを支えきれなくなった地表が陥没して形成される巨大な「くぼ地」のことを何といいますか。（2018年 山形県公立入試 類似）
1. リアス海岸
 2. 扇状地
 3. カルスト地形
 4. カルデラ
- 問10 山地が海岸まで迫り、起伏の多い土地が沈むことによって形成された、奥行きのある細かな湾と小さな岬が交互に連続する複雑な形状の海岸地形を何というか。（2020年 鳥取県公立入試 類似）
1. 砂州
 2. 干拓地
 3. リアス海岸
 4. 海岸段丘
- 問11 日本の気候区分において、冬（1月や12月）の降水量が夏よりも多くなり、雪が多く降る特徴を持つ地域はどこですか。（2021年 北海道公立入試 類似）
1. 太平洋側の気候
 2. 中央高地の気候
 3. 瀬戸内の気候
 4. 日本海側の気候
- 問12 三角州の形成過程と土地利用に関する説明として、最も適切なものはどれですか。（2015年 千葉県公立入試 類似）
1. 川が山地から平地に流れ出す場所に土砂が積もってできた地形で、水はけが良いため果樹園などに利用されることが多い。
 2. 河川が運んできた砂や泥が河口付近に積もってできた地形で、水が得やすいため水田や都市として利用されることが多い。
 3. 火山の噴火によって噴出した火山灰が厚く積もってできた地形で、排水が悪いためかつては大規模な原野が広がっていた。
 4. 海面の下落や地盤の隆起によってできた、周囲より一段高い平坦な地形で、古くから畑や住宅地として利用されてきた。
- 問13 日本の太平洋沿岸を、赤道に近い南の海域から北へ向かって流れる暖流は、別名「日本海流」とも呼ばれます。この海流の名称として正しいものを、次のうちから選びなさい。（2018年 千葉県公立入試 類似）
1. リマン海流
 2. 黒潮
 3. 対馬海流
 4. 親潮
- 問14 日本列島のほぼ中央に位置し、地質的に東日本と西日本に分ける巨大な溝状の地形を「フォッサマグナ」と呼びます。このフォッサマグナの西側の境界線にあたり、新潟県から長野県を通り静岡県へと至る構造線の名称を答えなさい。（2016年 愛媛県公立入試 類似）
1. 棚倉構造線
 2. 北断層帯
 3. 糸魚川・静岡構造線
 4. 中央構造線

答え合わせ・解説

問1	答え 1 冬でも緑の葉を保つスギやマツなどが多く、木材生産などに利用されることもある景観。	問題文にある地図記号は針葉樹林を示すものであり、日本では主にスギ、ヒノキ、マツなどが該当します。これらは常緑樹が多く、建材としての利用価値が高いため、人工林として植えられているケースも多く見られます。広葉樹林や果樹園、田（水田）とは、地図記号の形状によって明確に区別されています。
問2	答え 2 水分を多く含んだ砂質の埋め立て地などで、振動により砂の粒子の結合が崩れて地盤が軟弱化する。	液状化は、特に沿岸部の埋め立て地やかつての河川敷など、水と砂が多い場所で発生しやすいのが特徴です。地震の衝撃で砂の粒子の隙間にあった水が押し出され、地面全体が液体のような挙動を示すようになります。これにより、本来は強固だったはずの地盤が支える力を失い、建物の倒壊やライフラインの寸断を引き起こします。
問3	答え 1 扇状地であり、水はけの良さを活かして果樹園などに利用される。	山地から平地に河川が流れ出る場所では、勾配が急に緩やかになるため、河川が運んできた土砂が堆積しやすくなります。こうして形成される扇状地は、堆積した土砂の粒が大きく、隙間から水が地下へしみ込みやすい（水はけが良い）という性質を持ちます。そのため、地表に水が溜まりにくい環境を好むブドウやモモなどの果樹栽培に広く利用されています。一方、河口付近にできる三角州は土砂の粒が細かく、水が得やすいため水田に適しています。
問4	答え 4 噴火によって地下のマグマが大量に放出されたあと、地表が自重で陥没して大規模なくぼ地となったもの。	大規模な噴火が起こると地下のマグマだまりが空になり、支えを失った上部の地盤が崩れ落ちることで巨大なくぼ地が生まれます。火山灰の堆積による台地はシラス台地、階段状の地形は河岸段丘を指します。
問5	答え 4 カルデラ	火山の活動によって形成される地形で、大規模な噴火により地下に空洞ができ、そこが重みで沈み込む（陥没する）ことで広大な凹地となります。ポルトガル語で「鍋」を意味する言葉が語源です。阿蘇山のものは世界最大級の規模を誇り、窪地の中には平地が広がり、多くの人々が生活したり、鉄道が通ったりしています。
問6	答え 2 扇状地	山地を流れる急峻な河川が平地に出る際、勾配が急に緩やかになるため、水の運搬力が弱まり土砂が積もります。このとき、谷口を中心に扇を開いたような形で堆積が進むため、扇状地と呼ばれます。河口付近にできる三角州と混同されやすいため注意が必要です。
問7	答え 1 断面図と呼び、直線が等高線と交わる地点の標高を読み取り、高さの目盛りに対応させてつなぐ。	地形図上の二地点間の起伏を可視化したものを断面図といいます。作成にあたっては、地形図に引いた直線と等高線が交差するポイントごとに標高を確認し、それを垂直方向の高さを示すグラフにプロットして滑らかな線で結ぶことで、実際の山の傾斜や谷の深さを表現します。
問8	答え 4 日本海側のように冬に降水量が増えることも、太平洋側のように夏に降水量が増えることもなく、年間を通じて降水量が少ない。	瀬戸内の気候を他の地域と比較すると、季節による降水量の変動が小さいという特徴があります。日本海側の気候は冬に降水量（雪）が増え、太平洋側の気候は夏から秋にかけて降水量が増えますが、瀬戸内ではそれらの湿った空気が周囲の山地でカットされるため、年間を通じて降水量が100ミリメートル前後と低く推移します。この少雨という気候的背景から、かつては塩田による塩作りや、ため池を利用した農業が盛んに行われてきました。
問9	答え 4 カルデラ	火山の噴火プロセスにおいて、マグマが噴出したあとの地下の空洞に地表が落ち込むことで巨大なくぼ地が形成されます。この地形をカルデラと呼び、スペイン語で「鍋」を意味する言葉に由来しています。北海道の洞爺湖や九州の阿蘇山などが有名です。
問10	答え 3 リアス海岸	起伏に富んだ山地が沈水（地盤の沈下または海面の上昇）することによって生じる地形です。スペイン北西部のリアス・バイシャス海岸が語源となっており、日本では岩手県の三陸海岸南部や三重県の志摩半島、福井県の若狭湾周辺などに典型的な地形が見られます。非常に入り組んだ海岸線を持つのが最大の特徴です。
問11	答え 4 日本海側の気候	冬に北西から吹く季節風が日本海を渡る際に湿気を蓄え、日本の背骨となる山脈にぶつかすることで、日本海側に雪や雨をもたらします。このため、雨温図では1月や12月の降水量が突き出して多くなる特徴があります。
問12	答え 2 河川が運んできた砂や泥が河口付近に積もってきた地形で、水が得やすいため水田や都市として利用されることが多い。	三角州は河口付近に形成されるため、標高が極めて低く平坦であり、水害のリスクはありますが水利が良いのが特徴です。そのため、古くから水田として、現代では大規模な都市（岐阜市の中心部や広島市など）として開発されてきました。一方、山地から平地に出る場所にできるのは扇状地、周囲より一段高いのは台地です。
問13	答え 2 黒潮	日本の南から太平洋側に沿って北上する暖流は黒潮（日本海流）です。この海流は透明度が高いため、海の色が黒っぽく見えることからその名がつけました。対馬海流も暖流ですが、こちらは日本海側を流れる海流であるため、太平洋側を流れる黒潮とは区別する必要があります。
問14	答え 3 糸魚川・静岡構造線	フォッサマグナはラテン語で「大きな溝」を意味し、日本列島が形成される過程で生じた地質的な境界です。その西端を画する境界線は、新潟県の糸魚川市から長野県を経て静岡市付近まで伸びており、これを「糸魚川・静岡構造線」と呼びます。よく混同される中央構造線は、西日本を縦断する別の巨大な断層帯です。